

今月の PICK UP



『ちゃっけがいる移動図書館』 高森 美由紀／著 中央公論新社 913.67



主人公・実^{みのり}は、移動図書館担当として図書館で働く35歳。司書資格も持っていない非正規職員のため将来やお金の不安は常につきまとい、母親からはこの歳で独身なんて、と責められる日々。ある日、移動図書館を終えた帰り道で子犬を拾ったことにより実の生活は一変。嫌々ながらも里親が見つかるまで子犬を預かることになります。張り詰めた気持ちで毎日を過ごしていた実ですが、「ちゃっけ」と名付けた子犬と暮らすうちに徐々に笑顔が増えていきます。さらに移動図書館も一緒に行くようになり、ちゃっけや本を通じて移動図書館メンバーや利用者との交流も増えていきます。鬱屈した様子だった実が柔らかに変わっていく様はほほえましく、心に明かりが灯ったような気持ちになります。

『だから毎日、幼稚園に通えた』 東田 直樹／著 世界文化社 378



幼稚園時代、みんなと同じ行動がとれずにいた毎日を振り返りながら、自閉症の著者がその時の気持ちをことばにして伝えています。みんなと集合写真を撮るときに横を向いていたのはなぜ？ 幼稚園バスがやってきた時に走り回っていたのは、こんな理由があったから。いずれの時点にも、その気持ちに寄り添ってくれた先生の存在が力になったと著者はいいます。

子どもの素直な気持ちに近づくことができる1冊です。

司書の
おすすめ



『ふたたび歩き出すとき 東京の台所』 大平 一枝／著 毎日新聞出版 383.94

職業も年齢もさまざまな人たちの台所を訪ね歩く取材を長く続けている著者。台所や料理の話にとどまらず、今は亡き家族との思い出、抱えている悩みなど、その人のたどってきた道や心の奥深くまで話が及ぶこともあり、取材する側、される側という関係を超えた信頼関係が感じ取れます。

文中の著者の言葉「人は大小の喪失を経験しながら、それでも生きてゆく。」は、本書に登場する人たちにも私たちにも当てはまることではないでしょうか。



『アンソロジーお弁当。』 阿川佐和子／(他)著 PARCO出版 914.67



あなたは、お弁当にどんな思い出がありますか？ 本書は、日本を代表する41人の小説家・随筆家たちそれぞれのお弁当事情がひしひしと伝わってくるエッセイ集です。様々な世代のお弁当への思いが満載されており、読んでいるだけでなぜか懐かしく、幸せな気分になります。お弁当の良さを自然と感じられる1冊です。

『大相撲中継アナしか語れない 土俵の魅力と秘話』 藤井 康生／著

東京ニュース通信社 788.17

著者は、昭和、平成、令和と大相撲本場所実況中継アナウンサーとして、歴代の名勝負をはじめ、角界を盛り立ててきた力士たちの熱戦を、長年に渡り土俵脇で見続けてきました。本書にはそんな著者だからこそ知っている、テレビ中継では伝えきれなかった力士たちの意外な一面や、これまで明かされなかったエピソードやハプニングなどが記されています。

